

第1回中間報告

(報告期間 2017年8月22日～12月17日)

基本情報

氏名：森 侑子 (国際ロータリー第2710地区2017-18年度地区補助金奨学生)

派遣クラブ：福山ロータリークラブ

カウンセラー：林 克士 氏

受け入れホストクラブ：DRFC Rotary International District 2360

カウンセラー：

教育機関：ヨーテボリ大学大学院

(The University of Gothenburg)

専攻分野：教育学研究-国際修士プログラム

(International Master's Programme in Educational Research)

学業面での成果

スウェーデン第2の都市、ヨーテボリに到着したその日から大学の盛大な歓迎を受けることとなりました。空港には2時間おきに大学専用のバスが到着し、シティー中心地に位置する大学キャンパスへと送迎してくれました。大学に到着すると、ウェルカムバックと呼ばれる袋を手渡され、中には学生が使えるクーポン券や、市内地図、無料のSIMカード（携帯を海外で使う際に必要なカードで通常は携帯販売店で購入しなければならない）などが入っていました。その日から1週間弱は、市内に散らばる大学キャンパスを周るツアーや、大学や市主催のディナーパーティー、周辺の島を巡るツアーなど、あらゆるイベントが開催されました。その他には、ボランティアの在学生在が企画運営するイベントも数えきれないほど開催されていたため、到着してからの1週間で100人以上の友人ができたように思います。私の通っているヨーテボリ大学は、多彩な学問のプログラムを提供する大学としてスウェーデン国内では有名です。私自身が学んでいる教育学だけでなく、学問の壁を越えた交流ができたことはその後の学生生活でも非常に有意義な財産となりました。

私が在籍している「教育学研究-国際修士プログラム」は教育学部に属しており、「国際」という文字からも分かるようにスウェーデン国内だけでなく、各国から学生が集まっています。EU圏内の学生は学費が無料であったり、交換留学制度が豊富であることからヨーロッパ出身の学生が最も多く、日本からの学生は私一人だけです。8月末から最初のコース、「Introduction to International Master in Educational Research」が始まり、2名の教授から交代で講義を受けました。「教育学研究」とは、文字通り教育学に関する研究であり、「教育学」の内容は学校教育だけでなく多岐に渡ります。どのような教育学研究が行われてきたのか、どのような研究方法が構築され、どのような問題点を抱えているのか、俯瞰的に教育学研究に関して学ぶことができました。特に子どもの権利に関する学びや、研究を批判的に考察するプロセスは非常に興味深いものでした。受動的に教授の説明を聞くというスタイルではなく、次々と発問が出され、クラスメイトと議論しながら深く深く熟考していく日々が続きました。膨大な量の課題文献に苦戦していましたが、クラスメイトと文献内容をディスカッションしてから講義に臨んだおかげで、少しずつ余裕ができてきたように思います。10月末から新しいコース、「Research Environment Optional Course I」が始まりました。このコースでは、研究についてより深く知るために、自分が興味のある研究グループにインタビューを行い、その経験を元にエッセイを書きます。講義だけでなく、クラスメイトとグループプレゼンテーションを行ったり、劇のような形で発表を行ったりもしました。また、隙間時間を利用して、興味のある学部生向けの講義などにも参加させてもらっています。

大学に「国際政策協会」という学生団体があり、その内部組織として「MUN（模擬国連）」という組織があります。友人の誘いでMUNに参加しはじめ、現在ではメインのメンバーとして頻繁に参加しています。11月末には、デンマークに近いMalmöという都市でカンファレンスが行われ、スウェーデン国内各地からMUNのメンバーが集まり、児童労働、男女平等など特定のトピックに関して議論を行いました。4日間に及ぶ議論の末、特に功績が認め

られた2名だけに授与される特別賞を頂きました。



(左：MalmöでのMUNカンファレンスにてヨーテボリ大学の友人達と 右：頂いた賞)

受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

青少年交換委員長のRosmarie氏が紹介して下さい、スウェーデンに到着した直後から現地のローターアクトクラブの皆様と交流を持つことができました。ヨーテボリのローターアクトクラブには30人ほどが所属しており、週に1度のミーティングだけでなく、他の都市のクラブとの交流会など、非常に活発な活動をしています。スウェーデン語の話せない私にも親切に接して下さい、プライベートでも交流の深い大切な友人たちと出会うことができました。



(左：ロータリークラブ・ローターアクトクラブ合同パーティーにてRosmarie氏と 右：交流会にてローターアクトクラブの皆様と)

スウェーデンで生まれ育った方々と交流していく中で、スウェーデンの文化や伝統について少しずつ理解していったように思います。例えば、日本人は“和”を大切にする、としばしば言われますが、スウェーデン人も同じような文化があります。話し合いなどをしているとよく分かるのですが、その場の雰囲気を壊さないように配慮したり、個人の利益ではなくグループ全体のことを考えて自分を抑えたりする姿が見られました。また、ニュージーランドで生活していた頃は、一緒にエレベーターに乗った見知らぬ人に急に話しかけられるなど、自己と他人の関わり方の気軽さに驚かされた経験がありますが、スウェーデンではまずそのようなことはありません。アメリカからスウェーデンに来た友人は、バスで隣に座った人に話し

かけたところ、驚いて席を移動されてしまったと話していました。スウェーデン人はこの事を「スウェーデン人はシャイだから」と言いますが、物理的にも心理的にもパーソナルスペースがしっかりとあるという点では日本人に通じる点だと思いました。また、Rosmarie氏には家探しや大学での生活を心配して頂き、心の支えとなっています。しかし、残念ながらメールのお返事が頂けておらず、その他のロータリークラブの方々とは交流を持つことができていません。

奉仕活動としては、ボランティアとしての活動が挙げられます。ヨーテボリ市のユニセフ、赤十字、セーブ・ザ・チルドレン（子どもの人権擁護を専門とする国際NGO）でボランティアとして関わらせてもらっています。内容としては、難民の子どもたちが寝泊まりする施設でイベントを開催したり、食糧を提供したり、宿題や英語指導などの教育関係の支援を行っています。ヨーテボリ市では、2015年以降難民の受け入れ数が急増し、対応に追われています。微力ではありますが、ボランティアとして子どもたちと関わることができ嬉しく思っています。

直面した課題、問題点等

現在直面している最も大きな課題は、スウェーデン語の習得です。2年間スウェーデンで暮らすことができるので、生活をしていれば自ずと言語習得もできるものと安易に考えていましたが、今のところ初歩的な言葉しか話すことができません。大学の講義が全て英語であること、クラスメイトもスウェーデン国外から来ているため教室内での共通語も英語になってしまうこと、私生活でもスウェーデン語を使う機会はほぼ無く、英語だけで問題なく暮らせてしまうことが理由として挙げられます。スウェーデン政府が無料で提供しているスウェーデン語講座は移民、難民の影響もあり2ヶ月待ちの状態です。スウェーデン講座を一刻も早く受けられることを願いながら独学で勉強しています。学業面の課題としては、先述した通り課題の量に苦戦していましたが、クラスメイトと協力しながら何とかこなしています。私生活では、スウェーデンに到着した際スーツケースが壊れているというハプニングがありましたが、保険でカバーすることができました。準備段階から問題であった家探しは、運よく素敵な家を見つけることができ、スウェーデン人とドイツ人の学生とシェアハウスをしています。シェアハウスは今まで経験したことがなかったので、問題が出てくるのではと不安でしたが、非常に気の合う人達で、全く問題なく暮らしています。また、2018年1月からは引っ越しをする予定です。新たな家は、現在とは異なり家族と一緒に暮らします。その家族はゲイカップルの家族で、子どもを2人養子に迎えた4人家族です。スウェーデンをはじめとする北欧諸国では同性婚が認められており、スウェーデンでは2009年に同性婚を認める法律が成立しました。未だスウェーデンでも比較的“珍しい”とされているゲイカップル家庭での生活を楽しみにしています。

今後の課題、目標

私のプログラムは2年間ですので、初年度は講義を受けることがメインとなっています。卒業研究は次年度の後半から本格的に始まる予定ですので、今のうちにボランティアや興味のある施設見学など、積極的に行っていきたいと思います。また、実家から着物と浴衣、茶道のセットを持ってきたのですが、スウェーデンの人は日本文化にも興味があるようで、着付けをしてあげたり、お茶を点ててあげると非常に喜ばれます。日本文化を伝える経験は、私にとって日本について改めて学ぶ絶好の機会となっています。今後もさらにスウェーデンの文化を理解できるよう努め、日本の文化を伝えていきたいと思っています。